

平成31年度 看護学部2学年シラバス（前期・通年）

<前期>

英語Ⅱ 前期A	…P1～7
〃 前期B	…P8～13
生体防御学	…P14～18
病態栄養学	…P19～24
薬物治療学	…P25～30
微生物学	…P31～36
病理学	…P37～41
看護実践を支える看護技術とアセスメントⅡ	…P42～47
看護倫理学	…P48～53
家族の理解	…P54～58
地域の理解（地域看護学概論）	…P59～65
疫学	…P66～72
基礎看護学実習Ⅰ	…P73～79
成長発達に合わせた健康の維持・増進に関する看護Ⅰ	…P80～86
慢性疾患をもつ人の看護	…P87～94
母性看護学	…P95～100

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語2（English 2）前期Aグループ

教員名：田中 明夫

開講年次：2年次，学 期：2019度 前期，必修／選択：必修

授業形態：演習，単位数：2単位 ，時間数：60時間

概要：看護・医療の分野で用いられる英語を理解し、使えるようになるために必要な基礎的英語技能を養います。看護・医療に関するニュース等を教材として用い、リスニング、シャドーイング、リーディングと必要な語彙と表現の整理と習得が授業の中心になります。

- 学習目標：1) 看護や医療に関するニュースを聞き、要旨を聞き取ることができる。
2) 看護や医療で用いられる基本的表現や語彙を正確に理解することができる。
3) 看護や医療に関して書かれた英文を正確に読み取ることができる。
4) 看護や医療で用いられる語彙を正しく発音することができる。
5) 英文を正しいイントネーション、ストレス、ピッチで発音することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位

				認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	
2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—
				修得の機会がない

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：第1回目の授業で指示します。

参考書：『ウィズダム英和辞典』三省堂

『ジーニアス英和辞典』大修館書店

『リーダーズ英和辞典』研究社

Longman Dictionary of Contemporary English LONGMAN

Oxford Advanced Learner's Dictionary Oxford University Press

成績評価方法：小テスト、期末試験及び授業への参加度・貢献度を総合して評価します。

その他（メッセージ等）：初めて目にする語彙や表現が多く、事前に自分で調べなければな

らない事項が多くなると思います。必ず予習をして、積極的に授業に取り組んでください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	シャドーイングの基礎	シャドーイング
第2回	看護・医療に関するニュース(1)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第3回	看護・医療に関するニュース(2)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第4回	看護・医療に関するニュース(3)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第5回	看護・医療に関するニュース(4)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第6回	看護・医療に関するニュース(5)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第7回	看護・医療に関するニュース(6)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第8回	看護・医療に関するニュース(7)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第9回	看護・医療に関するニュース(8)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第10回	看護・医療に関するニュース(9)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第11回	看護・医療に関するニュース(10)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第12回	看護・医療に関するニュース(11)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第13回	看護・医療に関するニュース(12)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第14回	看護・医療に関するニュース(13)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第15回	看護・医療に関するニュース(14)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第16回	看護・医療に関するニュース(15)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第17回	看護・医療に関するニュース(16)	リスニング, シャドーイング, リーディング

第18回	看護・医療に関するニュース(17)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第19回	看護・医療に関するニュース(18)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第20回	看護・医療に関するニュース(19)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第21回	看護・医療に関するニュース(20)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第22回	看護・医療に関するニュース(21)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第23回	まとめ	

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語 2 前期 B グループ (English 2)

教員名：中山 仁

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期 ， 必修/選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：60時間

概要：医療英語に関する記事などを読んで、看護・医療の分野で使われる英語の語彙や表現について学ぶ。授業では、(1)医療に関連する語彙・表現を覚える演習、(2)ニュースなどのリスニング・リーディングを通して、内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、(3)英文の内容を通して、最近の医療事情について理解を深める。

学習目標：1)基本的な医学用語を正しく発音し、その意味が理解できる。

2)習得した医学用語に基づいて、派生語や類義語の発音・意味を理解できる。

3)医療英語に関する記事のキーワードを読み取ることができる。

4)英語の文法と文章構成のパターンに基づいて、英文を正確に読み取ることができる。

5)英文を問題意識を持って読むことができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでの コミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：教室で指示する。

参考書：1) 一般語でより豊富な語彙を求める場合：『リーダーズ英和辞典』（研究社）

2) 専門用語の理解のために：『ステッドマン医学大辞典』（メジカルビュー社）
 成績評価方法：演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合して評価する。

その他（メッセージ等）：読む英文の量が増え、専門性が高くなります。しっかりと準備を

して授業に臨んで下さい。医学用語の独特の発音とともにたくさんの語を覚え、英語を通して医療の知識や関心がさらに高まることを期待しています。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	Course Overview	Warm-up Exercises
第2回	医療・看護に関する記事 (1)	リスニング・リーディング・発音練習
第3回	医療・看護に関する記事 (2)	リスニング・リーディング・発音練習
第4回	医療・看護に関する記事 (3)	リスニング・リーディング・発音練習
第5回	医療・看護に関する記事 (4)	リスニング・リーディング・発音練習
第6回	医療・看護に関する記事 (5)	リスニング・リーディング・発音練習
第7回	医療・看護に関する記事 (6)	リスニング・リーディング・発音練習
第8回	医療・看護に関する記事 (7)	リスニング・リーディング・発音練習
第9回	医療・看護に関する記事 (8)	リスニング・リーディング・発音練習
第10回	医療・看護に関する記事 (9)	リスニング・リーディング・発音練習
第11回	医療・看護に関する記事 (10)	リスニング・リーディング・発音練習
第12回	医療・看護に関する記事 (11)	リスニング・リーディング・発音練習
第13回	医療・看護に関する記事 (12)	リスニング・リーディング・発音練習
第14回	医療・看護に関する記事 (13)	リスニング・リーディング・発音練習
第15回	医療・看護に関する記事 (14)	リスニング・リーディング・発音練習
第16回	医療・看護に関する記事 (15)	リスニング・リーディング・発音練習
第17回	医療・看護に関する記事 (16)	リスニング・リーディング・発音練習
第18回	医療・看護に関する記事 (17)	リスニング・リーディング・発音練習
第19回	医療・看護に関する記事 (18)	リスニング・リーディング・発音練習
第20回	医療・看護に関する記事 (19)	リスニング・リーディング・発音練習
第21回	医療・看護に関する記事 (20)	リスニング・リーディング・発音練習
第22回	医療・看護に関する記事 (20)	リスニング・リーディング・発音練習
第23回	Review Quiz	まとめ

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する科目

科目名（英語名称含む）：生体防御学（ ）

教員名： 本多たかし、太田昌一郎、森努、大津留晶

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期 ，必修/選択：必修選択

授業形態：講義 ，単位数：2単位 ，時間数：60時間

概要：疾患の成り立つ背景と、それに対する人体の防御システムを理解する。

学習目標：

- ① 外因とは何かを理解する。
- ② 皮膚の構造と機能を理解する。
- ③ 免疫系の構造と機能を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。

2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。	

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。
6. 地域社会への貢献			
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>			
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。
7. 看護学発展への貢献			
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。			
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。

テキスト：特に指定しない。講義資料を Web で提示する。

参考書：講義中に随時提示する。

成績評価方法：試験、レポートの等分評価

その他（メッセージ等）：理由の如何を問わず、欠席は認めない。欠席した場合には教員に報告し、その指示に従うこと。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション	生体防御システム概論
第2回	物理的要因	外力による損傷、温熱による損傷、圧力による損傷
第3回	化学的要因	化学物質、医薬品、医薬用外品、薬害
第4回	生物学的要因	アレルギー、地域に特異的な感染症(野兔病)
第5回	環境変化による疾患	大気汚染、自然災害
第6回	皮膚	表皮、真皮、皮下組織、爪、毛
第7回	免疫組織	リンパ組織、リンパ節、骨髄、扁桃、虫垂
第8回	免疫理論	抗体、抗原抗体反応、移植免疫
第9回	放射線医学概論	放射線の基礎知識

区分名：人間の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）：病態栄養学（Clinical nutrition）

教員名：中村啓子

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義・演習，単位数：2.0単位，時間数：45時間

概要：人間にとっての栄養の意義を理解し、人間の成長発育や生命維持に必要な各種栄養素の種類と代謝について学習する。また、各種の疾患や病態が、どのような食事や栄養補給が病態と栄養状態を改善するために有効であるか治療食について理解する。

学習目標：人間の成長、生命維持活動に関与する各種栄養素の種類と代謝やライフステージによる栄養状態の変化と食事・栄養管理について、疾病や障害時の栄養療法について理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	〃
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		

			責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	〃
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない

		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：看護栄養学（医歯薬出版）

参考書：

成績評価方法：筆記試験（50%）、レポート（40%）、出席状況（10%）で評価する。詳しくは第1回目の授業で示す。

その他（メッセージ等）：看護学教育における病態栄養学は生きることを支える看護の基本への教育といえるでしょう。“その人らしさ”を損なうことなく援助できるような知識を身に付けてください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	疾病と栄養	“その人らしい食生活”への援助
第2回	ライフサイクルと栄養 I	ライフサイクルと食のかかわり
第3回	ライフサイクルと栄養 II	人間の成長過程における食生活・栄養管理

	養Ⅱ	
第4回	ライフサイクルと栄養Ⅲ	人間の成長過程における食生活・栄養管理
第5回	食べる行動から始まる栄養	食べる行動とは
第6回	とり込まれた食物のゆくえ	消化から始まる栄養
第7回	病態と栄養	食生活の自立への援助 疾病時の栄養方法
第8回	疾病と栄養	代謝疾患の栄養療法
第9回	疾病と栄養	その他疾患別栄養療法
第10回	QOLと食生活	食の精神的側面からの考察
第11回	人間と食文化	食の文化的側面からの考察
第12回	セルフケアと食事	食行動を促す患者教育
第13回	セルフケアと食	食生活の自立への援助
第14回	現代人の食生活の課題	現代人の食生活から
第15回	健康・栄養状態の評価	栄養アセスメント
第16回 ～第18回	食事療法の実際（常食）	入院時の一般食について（実習）
第19回 ～21回	食事療法の実際（軟食からの展開）	軟食からの展開について（実習）
第22回 ～24回	食事療法の実際（減塩について）	減塩の方法について（実習）
第25回 ～27回	エネルギーコントロール食について	エネルギーコントロールと満足度について（実習）
第29回 ～31回	たんぱく質コントロール食について	たんぱく質コントロール食について（実習） について（実習）
第32回 ～34回	離乳食・幼児食について	乳幼児期の食事について（実習）
第35回	栄養成分表示について	栄養成分表示について

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）： 薬物治療学（Pharmacotherapy）

教員名： 本多 たかし、尾形 浩

開講年次： 2年次，学 期： 2019年度 前期・後期 ， 必修／選択： 必修

授業形態： 講義実習 ， 単位数： 2単位 ， 時間数： 30時間

概要： 薬物が生体に作用して引き起こす種々の反応とその作用機序について学び、薬について患者にわかりやすく説明できるように狭義の薬物療法学についての基礎知識を習得する。

学習目標： 薬物療法を実施するにあたっての必要な薬物の基礎知識を学ぶ。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	

2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。	

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。	
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。	
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。	
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。	
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。	
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。	
6. 地域社会への貢献				
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>				
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。	

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： コメディカルのための薬理学 渡邊泰秀・安西尚彦・櫻田 香 編 朝倉書店

参考書： 系統看護学講座：専門基礎「薬理学」医学書院

成績評価方法： 平常点、試験などを総合的に評価する。

その他（メッセージ等）： 人体解剖生理学 I・II、生化学、病理学の単位を修得しておくこと。また、各章ごとの資料をFMUパスポートに掲示するので授業にあたって各自紙媒体等に出力して持参すること。

授業内容(学習項目)

回	項 目	内 容 (キーワード等)
1,2	薬理学総論 (1)	薬とは、薬物の体内動態
3,4	薬理学総論 (2)	薬の作用機序
5,6	感染症治療薬	抗菌薬(抗生物質、抗菌薬)、抗ウイルス(HIV、HCV、インフルエンザ)薬、特殊な感染症
7,8	抗がん薬	各種抗がん薬と支持療法、分子標的療法

9	免疫治療薬	免疫抑制薬、免疫増強薬、感染予防薬
10	抗アレルギー薬	抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬
11,12	抗炎症、鎮痛薬	非ステロイド性抗炎症薬、鎮痛薬、ステロイド性抗炎症薬、慢性関節リウマチ治療薬、片頭痛治療薬
13,14	末梢神経作用薬（総論）	自律神経系と神経伝達物質
15,16	末梢神経作用薬（各論）	自律神経に作用する薬物、局所麻酔薬、筋弛緩薬
17	中枢神経作用薬（総論）	中枢神経系と神経伝達物質
18	中枢神経作用薬（各論）	抗不安薬と催眠薬、統合失調症治療薬、認知症治療薬、双極性障害治療薬、抗うつ薬、パーキンソン病治療薬、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬
19,20,	循環器系、血液系疾患治療薬	虚血性心疾患治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、降圧薬、利尿薬、高脂血症治療薬、抗血液凝固薬
21	呼吸器、消化器系疾患治療薬	気管支喘息治療薬、消化性潰瘍治療薬、ヘリコバクター・ピロリ除菌薬
22	代謝内分泌疾患治療薬	糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬
23	漢方薬	漢方薬とは、漢方薬と適応症

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）： 微生物学（Microbiology）

教員名： 錫谷達夫

開講年次： 2年次，学 期： 前期 ， 必修／選択： 必修

授業形態： 講義・実習 ， 単位数： 1 単位 ， 時間数： 2 3 時間

概要： 看護の現場では感染症患者が多数存在し、感染を防ぎながら看護する技術は必須である。また、高度な医療を受ける患者の多くは免疫能が低下しており、我々が持っている常在菌ですら死に至る感染症の原因となる。本科目では、病原微生物の性質や感染症の病態生理を学び、看護実践の基礎となる感染制御を理解する。

- 学習目標： 1) 各病原微生物の性質と感染経路、病原性を概説できる。
2) 感染症の感染経路を概説し、感染経路別の予防策を説明できる。
3) 予防接種の種類と接種の法的な区分を概説できる。
4) 滅菌と消毒の原理を理解し、病院で行われている滅菌・消毒の実際を説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。		

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	—	
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目		

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践	—	
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。				
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。	
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。	
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。	
7. 看護学発展への貢献				
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。				
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	

テキスト： ナースのための微生物学 6版

参考書： 戸田細菌学

成績評価方法： 試験、出席、レポートを総合的に評価する。

その他（メッセージ等）： 実習は2度と経験ができないので、出席を必須とする。以下の授業内容に教科書の関連するページ数を記載するので、予習してくること。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	微生物学総論	ガイダンス、微生物学の歴史（第1章 p.1-3）

第2回	微生物学総論	微生物とは (第2章 p. 5-14)
第3回	微生物学総論	感染とは (第4章 p. 35-40, 43-44)
第4回	微生物学総論	感染経路 (第4章 p. 40-42)
第5回	微生物学総論	滅菌と消毒 (第6章 p. 68-82)
第6回	微生物学総論	ワクチン (第6章 p. 65-68)
第7回	細菌学各論	球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌 p. 95-102)
第8回	細菌学各論	杆菌 (腸内細菌科、ビブリオ p. 102-105, 107-116)
第9回	細菌学各論	芽胞形成菌 (p. 118-122)
第10回	細菌学実習	手に存在する菌の培養
第11回		薬剤感受性試験
第12回	細菌学各論	らせん状菌 (p. 124-128)
第13回	細菌学実習	グラム染色による菌の観察
第14回		薬剤感受性試験の判定
第15回		
第16回	細菌学各論	抗酸菌 (p. 131-136)
第17回	細菌学各論	マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア (p. 136-142)
第18回	ウイルス学総論	ウイルスとはどのような生物か (p. 14-18)
第19回	ウイルス学各論	ヘルペスウイルス (p. 145-149)
第20回	ウイルス学各論	インフルエンザウイルス (p. 151-154)
第21回	ウイルス学各論	ワクチンで予防できるウイルス性疾患 (p. 150, 154, 160-161)
第22回	ウイルス学各論	肝炎ウイルス (p. 171-176)
第23回	ウイルス学各論	レトロウイルス (p. 167-169)

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する科目

科目名（英語名称含む）：病理学（Pathology）

教員名： 本多たかし

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期 ，必修/選択：必修選択

授業形態：講義、実習 ，単位数：2単位 ，時間数：60時間

概要：疾患の成り立つ背景と、それに対する人体の反応を理解する。

学習目標：

- ④ 病理変化とは何かを理解する。
- ⑤ 基本的な病態の特徴を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。
2. 生涯学習			

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。	

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。
6. 地域社会への貢献			
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>			
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。
7. 看護学発展への貢献			
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。			
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。

テキスト：特に指定しない。講義資料を Web で提示する。

参考書：講義中に随時提示する。

成績評価方法：試験、レポートの等分評価

その他（メッセージ等）：理由の如何を問わず、欠席は認めない。欠席した場合には教員に報告し、その指示に従うこと。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション	病理学とは？
第2回	退行性変化	萎縮、変性、壊死、アポトーシス、個体死
第3回	進行性変化	肥大、過形成、肉芽組織、修復、瘢痕、治癒
第4回	循環障害	出血、虚血、凝固異常、浮腫、腔水症、心不全
第5回	代謝障害	糖原病、脂質代謝異常、糖尿病、アミロイドーシス
第6回	免疫異常	アレルギー、後天性免疫不全症候群
第7回	炎症	急性炎症、慢性特異性炎症
第8回	腫瘍	発癌機序、良性腫瘍、悪性腫瘍、癌腫、肉腫
第9回	先天異常	催奇形因子、臨界期、単体奇形、二重体

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：看護実践を支える看護技術とアセスメントⅡ（Nursing skills and assessment as the fundamental nursing practice Ⅱ）

教員名：丸山育子 川島理恵 田中啓子 林紋美

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義演習 ，単位数：2単位 ，時間数：60時間

概要：看護学は、実践の学問です。授業は病床を想定した実習室において行い、学生が互いに患者役看護者役を体験して、看護技術の基本を学びます。看護者は看護技術の提供において、様々な視点から対象を把握し、看護の必要性をアセスメントし、個別性を踏まえながら方法を考えます。この一連のプロセスでは、客観的な根拠(evidence)に基づいて考えることが大切です。「何故そのように行うか」と「どのように行うか」の双方に着目しながら複数の教員と共に看護の基本を学びます。本科目においては、人が生活を営む上で不可欠な活動、食・栄養、排泄のアセスメントと基本となる技術と検査を受ける対象に必要な援助について学びます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

一般目標

対象の活動や食・栄養、排泄に関する対象の状態を適切にアセスメントするための基本的な知識や技術を獲得する。また、検査を受ける対象の援助で求められる看護師の役割を理解するとともに、看護師が実施する検査の範囲とその基礎知識と技術の一部を獲得する。

行動目標

- 1) 対象の活動、食・栄養、排泄の状態をアセスメントし、技術を提供する必要が理解できる。
- 2) 対象の活動、食・栄養、排泄の状態をアセスメントするための基本的知識を獲得する。
- 3) 活動、食・栄養、排泄の援助における基礎的看護技術の方法を獲得する。
- 4) 検査を受ける対象を援助における看護師の役割および看護師が実施する検査の範囲を理解する。
- 5) 看護師が実施する検査の技術の一部を獲得する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	

看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場で知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定はしません。授業で資料を配布します。

参考書：適宜紹介します。

成績評価方法：筆記試験、実技試験、授業への取組みで総合的に評価します。

その他（メッセージ等）：看護実践の場で出会う方々に、看護を提供することになります。

看護は人の生活を援助することです。そのためには、人の生活を援助するための基本的な知識と技術を身に付けておくことが重要になります。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1. 2. 3 回	活動と運動（1）	人間の活動の特徴 ボディメカニクス 体位変換 1
第 4. 5. 6 回	活動と運動（2）	筋運動と神経調節 体位変換 2
第 7. 8. 9 回	活動と運動（3）	意識的な動き 体位変換 3
第 10. 11. 12 回	活動と運動（4）	意識的な動き 体位変換 4
第 13. 14. 15 回	活動と運動（5）	無意識的な動き 移送 車椅子など
第 16. 17. 18 回	活動と運動（6）	無意識的な動き MMT
第 19. 20. 21 回	食と栄養（1）	摂食嚥下機能
第 22. 23. 24 回	食と栄養（2）	摂食嚥下機能障害がある方への援助 経管栄養法
第 25. 26. 27 回	食と栄養（3）	栄養状態アセスメント
第 28. 29. 30 回	排泄（1）	排尿 排便 排泄物の観察 腹部マッサージ
第 31. 32. 33 回	排泄（2）	排便機能に障害がある方への援助 床上排泄
第 34. 35. 36 回	排泄（3）	排尿機能に障害がある方への援助 間欠的導尿
第 37. 38. 39 回	検査（1）	臨床検査の目的と種類
第 40. 41. 42 回	検査（2）	静脈血採血
第 43. 44. 45 回	検査（3）	静脈血採血

区分名：

科目名（英語名称含む）：看護倫理学（Nursing ethics）

教員名：佐藤 博子

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義 ，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：治療やケアの決定をめぐる、医療サービスを提供する側や受ける側、その周辺の関係者にはさまざまな問題や葛藤が生じる。このような状況に際して看護の提供者として、倫理的感受性を滋養することを目標とし、具体的な事例について検討し、倫理的に判断し、どのように取り組めばよいのか解決法を学習する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

- 学習目標：1) 看護実践における倫理の重要性について説明できる。
2) 専門職の看護倫理綱領の意義と内容について説明できる。
3) 倫理問題解決のための方法について説明できる。
4) 看護専門職が持つべき倫理的感受性を高め、責務を追及しようとする姿勢について理解できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。		〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	習得の機会がない。

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	習得の機会がない

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	習得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	習得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 宮坂道夫 著者代表 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院

参考書： 講義内で提示する

成績評価方法： 授業への参加度とレポート、試験により評価する。

その他（メッセージ等）： 看護の専門性と倫理的課題についての理解を深め、専門職としての倫理的態度について学びましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	看護倫理についての基礎知識	看護倫理とは
第2回	看護倫理についての基礎知識	看護倫理の必要性

第3回	専門職としての看護倫理綱領	日本看護協会の倫理綱領
第4回 第5回	看護の場面における倫理的ジレンマ	倫理的分析と意思決定モデル
第6回	インフォームド・コンセントと看護師の役割	インフォームド・コンセントとは 看護師の役割について
第7回 第8回	看護倫理問題の事例検討	模擬事例について検討
第9回	看護研究における倫理	看護研究における倫理、倫理審査
第10回 第11回	専門職としての看護倫理綱領	日本看護協会の倫理綱領を読み解く 自己学習とグループワーク
第12回	専門職としての看護倫理綱領	日本看護協会の倫理綱領を読み解く グループワーク発表

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：家族の理解（Understanding of the family）

教員名：中村由美子

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：30時間

概要：家族を一つの単位として捉え、援助する重要性について学ぶとともに、家族看護学の基盤となる理論およびアセスメントへの活用方法について学習する。
看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- (1) 看護において家族が援助対象であることの理解を深める。
- (2) 家族看護学の基盤となる理論について修得する。
- (3) 現代の家族の特徴、背景、諸問題等について理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	"
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	"
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	"
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、

		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		単位認定に関係ない
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	〃
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	△	修得の機会があるが単
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		位認定に関 係ない
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	”
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

特になし

参考書：

- ・山本一力著：あかね空 文春文庫
- ・森岡清美・望月嵩共著：新しい家族社会学 培風館 2002
- ・中村正著：家族のゆくえ 新しい家族社会学 人文書院 1998

成績評価方法：

レポート(80%)とグループディスカッション(20%)

その他(メッセージ等)：

- ・看護学の各領域に関連する科目のため、既習の知識を活用しながらそれらを統合し、主体的な学習姿勢で臨んで下さい

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回 4月15日	1. 看護学における「家族」とは 1)社会における家族の変化と看護学における家族の概念	家族とは 家族の変動
第2回 4月22日	2)家族の健康の概念 3)家族看護の定義	ライフサイクルと家族の発達課題 家族の構造と機能
第3回 5月13日	2. 家族看護の実践 1)家族看護の実践レベルと家族看護過程	家族看護の実践レベル 家族看護過程
第4回 5月20日	3. 家族看護学における理論 家族発達理論 家族システム理論 等	家族システム理論 家族発達理論 家族システム対処理論
第5回	4. 映画「あかね空」視聴	家族の発達と機能

5月27日		
第6回 6月3日	5. コミュニケーションとは コミュニケーション理論	コミュニケーション理論 メリディアンの方則
第7回 6月10日	6. 映画「あかね空」のレポートから家族について考える(グループワーク)	家族の発達と機能
第8回 6月18日	7. 現代家族について, まとめ(試験を含む)	家族形態の変化とゆくえ

※第1～7回：I～III限目（8：40-9：40、9：50-10：50、11：00-12：00）

第8回：VI・VII限目（15：20-16：20、16：30-17：30）

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：地域の理解

教員名：高瀬佳苗

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：この科目では、地域の人々の生活、地域の文化・環境、地域社会の構造について学習し、看護の対象を地域全体として捉える方法を学びます。また、地域の健康に関する情報を集める方法、地域の人々の健康に対する考え方やニーズを把握する方法、そこから地域の課題を導く方法、これらと関連する地域看護学領域で活用できる理論やモデルについて学習します。そして、地域看護の活動分野に応じた特性を理解し、看護活動の展開について学びます。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標(一般)： 1) 地域看護の対象、目的、地域看護活動の基盤となる考え方について知る。
2) 行政、学校、産業、そして在宅などの地域を基盤とする地域看護活動について学ぶ。
3) 地域看護学領域で用いられる理論やモデルを知り、地域看護活動の場所における活用について理解する。

学習目標(行動)： 1) 地域看護の定義が述べられる。
2) 地域看護に関連する主要な概念について説明できる。
3) 地域看護学の対象を述べることができる。
4) 地域看護活動の場所について列挙することができる。
5) 活動場所の特性に応じた地域看護活動を説明できる。
6) 地域看護活動における理論・モデルの有用性について述べられる。
7) 地域看護学の今後の課題について述べられる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 ② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	— 修得の機会がない
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。 ② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。 ③ 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	— 修得の機会がない
3)	対人関係	① 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	— 修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	① 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。 ② 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	△ 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
2. 生涯学習			
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。			
1)	自己啓発と自己鍛錬	① 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。 ② 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。 ③ 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	— 修得の機会がない

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 荒賀直子・後閑容子編. 公衆衛生看護学 jp. インターメディカル. 最新版

参考書： 木下由美子編. エssenシャル地域看護学. 医歯薬出版. 最新版
 宮崎美砂子他編. 最新地域看護学総論. 日本看護協会出版会. 最新版
 宮崎美砂子他編. 最新地域看護学各論 1. 日本看護協会出版会. 最新版
 宮崎美砂子他編. 最新地域看護学各論 2. 日本看護協会出版会. 最新版
 奥山則子他. 地域看護学概論, 標準保健師講座第 1 巻. 医学書院. 最新版
 中山裕美子他. 地域看護技術, 標準保健師講座第 2 巻. 医学書院. 最新版
 中谷芳美他. 対象別地域看護学活動, 標準保健師講座第 3 巻. 医学書院. 最新版

成績評価方法： 出席および授業への参加態度 20%(授業中の不要な私語、携帯電話等の操作は減点になります)、定期試験 80%

その他 (メッセージ等)：看護の対象が個人だけではなく、集団や一定の広がりのある地域全体だという点に特徴がありますので、社会に関する情報にも関心を寄せると学びが深まります。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	地域看護学とは	定義、目的、主要な概念
第2回	地域看護活動の展開1[地域を知ることと健康問題]	個人と集団、健康上の問題
第3回	地域を基盤とする考え方: 公衆衛生学の視点	公衆衛生、生活と環境
第4回	地域看護活動の展開2[看護過程と地域診断]	プロセス、看護の診断
第5回	地域看護活動の展開3[地域看護の展開方法]	家庭訪問、健康相談、保健指導など
第6回	地域看護の活動場所と看護活動1[中核市]	都道府県の保健所
第7回	地域看護の活動場所と看護活動2[都道府県]	中核市の保健師活動
第8回	地域看護の活動場所と看護活動3[市町村]	市町村の保健師活動、実際
第9回	健康危機管理[災害時の地域看護活動]	大規模災害、保健師活動
第10回	地域看護の活動場所と看護活動4[学校・事業所]	学校保健、産業保健
第11回	地域看護の活動場所と看護活動5[在宅看護]	在宅療養、訪問看護
第12回	地域看護活動に活用できる理論とモデル	看護理論、看護モデル
第13回	地域包括ケアシステムと多職種連携	ケアシステム、関係職種
第14回	地域看護活動と今後の課題	地域看護の歴史、法の変遷 今後の保健師活動

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：疫学（Epidemiology）

教員名：後藤あや、松井史郎

開講年次：2年次，学期：2019年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義，単位数：2単位 ， 時間数：23時間

概要：

疫学の講義は、統計学（1年前期）および情報学演習（1年後期）とシリーズになっており、この3つの講義と演習を通して、エビデンスに基づく保健医療が提供できる知識と技術が身につくことを目指します。

エビデンスとは、日本語にすると「根拠」です。保健医療サービスは、その効果が科学的に明らかであるもの、つまりエビデンスが検証されたものを提供することが望まれます。ここでエビデンスとは、数値だけではなく、人々の声（文章）のデータも含まれます。

疫学の講義では、統計学で学んだことを復習した上で、データを収集する調査デザインの特徴、交絡とバイアス、さらには論文に提示された結果を読み取るためのより発展的な知識を学びます。基礎的な机上の勉強と捉えられがちですが、疫学は非常に実用的であり、保健医療の実務で必ず使う実践技術です。

学習目標：

一般目標

エビデンスに基づく保健医療が提供できるようになるために、データを収集、分析、提示、読み取るための知識と技術を身につける。

具体的目標

1. 疫学指標について説明できる。
2. 疫学デザイン（生態学的研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究、介入研究、スクリーニング）の特徴について説明できる。
3. 交絡とバイアスについて説明できる。
4. 臨床疫学で得られたエビデンスを理解できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	講義に組み込まれているグループ演習に班員で協力して取り組む態度を評価する。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	EBM/EBNに必要な知識を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	グループ演習を通じて修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	◎	論理的思考能力としてデー

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		データを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	健康に関するデータを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	健康に関するデータを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島で起こった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	災害時における科学的データの伝え方について、基礎的知識を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	健康に関するデータを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

日本疫学会（監修）. はじめて学ぶやさしい疫学. 南江堂.

参考書：

横川博英（監）, 藤林和俊（著）. 看護研究をはじめのための統計と臨床疫学. 学研メディカル秀潤社.

成績評価方法：

試験（70%）と出席・提出物（30%）により総合的に評価します。

その他（メッセージ等）：

シリーズとしている3つの講義・演習どれにおいても、グループ演習への積極的な参加を求めます。講義を聞くだけでなく、自分で考え、使うことで、知識と技術は定着します。

特別講師（予定）：川井巧（大原総合病院）、郡山千早（鹿児島大学）、横川博英（順天堂大学）

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
1, 2, 3	統計学の復習、疫学指標、因果関係 演習：統計の復習問題、因果関係の推測	有病率、罹患率、相対危険、寄与危険
4, 5, 6	生態学研究、横断研究 演習：事例研究の読み取り	研究の倫理、生態学的研究、横断研究、年齢調整、交絡
7, 8, 9	症例対照研究、コホート研究 演習：事例研究の読み取り	症例対照研究、コホート研究、バイアス
10, 11,	介入研究、スクリーニング	無作為割り付け、マスクング、感

12	演習：事例研究の読み取り	度、特異度、陽性反応的中率、信頼性、妥当性
13, 14, 15, 16	臨床疫学の基本と実例 演習：得られたエビデンスの理解と実践	臨床疫学、EBM、ヘルスプロモーション
17, 18	県民健康調査のデータから実例を学ぶ	災害、リスクコミュニケーション
19-22, 23	総復習	

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：基礎看護学実習Ⅰ（fundamental nursing clinical practicumⅠ）

教員名：木下美佐子、佐藤博子、川島理恵、丸山育子、堀内輝子、田中啓子、一條由夏

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：実習 ，単位数：1単位 ，時間数：45時間

概要：本実習は、健康問題を抱え、病院での治療を余儀なくされた方を受け持ち、4日間を通して対象を理解します。5日目は学内でカンファランスを行い、意見交換を通して学びを深めます。実習を通して、対象に積極的な関心を向け、対象の生活や健康状態を理解することの大切さを学んでいきます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- 1) 健康上の問題により入院が必要になった対象に積極的な関心を向けて、対象との間に関係性の形成をめざす。
- 2) 入院が対象の生活に及ぼす影響に着目しながら対象を理解する。
- 3) 保健医療チームの一員であることを自覚し、責任をもって行動する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職とし

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		ての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会はない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会はない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	－	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

参考書：

成績評価方法：

当該実習総時間数の 5分の4以上出席しなければ単位認定を受けることができない。

実習評価は実習内容・実習態度・記録を統合して行う。評価配点は実習要項に記載する。

その他（メッセージ等）：

健康障害を抱え、治療のために病院という特殊な環境での生活を余儀なくされる人々があります。病気を抱えること、病院での生活を送ること、検査や治療を受けることは、その人々の生活や健康にどのような影響を及ぼすのでしょうか。そして、看護職者は、それらの人々に対してどのような側面に関わる役割を持つのでしょうか。実習は他の授業形態以上に皆さんの積極的な姿勢が求められます。教員と共に看護について考えて行きましょう。

授業内容(学習項目)

1. 実習施設

- ①公立大学法人福島県立医科大学附属病院
- ②公益財団法人湯浅報恩会寿泉堂総合病院
- ③公立藤田総合病院
- ④会医療法人秀公会あづま脳神経外科病院

2. 実習期間

前半：平成 31 年 7 月 22 日(月)～7 月 26 日(金) *金曜日は学内にてまとめ
 後半：平成 31 年 7 月 29 日(月)～8 月 2 日(金) *金曜日は学内にてまとめ

3. グループ編成：1 グループ 4 名程度とする。

4. 実習前オリエンテーション

実習の約 1 ヶ月前に 2 年生全員を対象にオリエンテーションを行い、実習目的や実習の展開方法、実習に際しての留意点などの説明を行う。また、実習前週には、グループ毎にオ

リエンテーションを行い、病棟の特徴や対象に関する説明を行う。

5. 実習期間中

実習時間は基本的に 8 時 30 分～16 時 30 分とするが、実習施設の状況に応じて開始時刻は変更となるため、オリエンテーションにてその詳細を把握すること。詳細は、実習要項に記載するが、学生はそれぞれ一人の対象を受け持ち実習を展開する。また、日々、実習指導者や教員、グループメンバーと共にカンファランスを行い、学びを深める。

6. 個々のレポートを通しての学びの整理

実習と、実習後のカンファランスを踏まえながら、実習目的に沿って個々の学びを論理的に整理し、自己の課題を見出す。

7. 記録のまとめと提出

実習中は、日々の学びを指定の用紙にまとめる。他に、実習終了後に「実習を通しての学び」をまとめる。詳細は実習要項に記載する。

区分名：看護実践の基礎となる科目

科目名（英語名称含む）：成長発達に合わせた健康の維持・増進に関する看護 1
（ ）

教員名： 佐藤利憲 脇屋友美子 和田久美子 坂本祐子

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期 ，必修／選択：必修選択

授業形態：講義，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：

新生児期から老年期までの発達段階における、人の成長・発達、成熟と老化のプロセスについて、身体的・心理社会的な観点からの捉え方とその特徴を学ぶ。また、各ライフステージにおける発達課題と健康上の課題について理解を深め、健康の維持増進を考える上で基盤となる概念・理論について学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

- 学習目標：1. ライフステージにおける発達段階とは何かを説明できる。
2. 心の構造と働きについて、イド・自我・超自我という用語を用いて説明できる。
3. ストレス・コーピング・危機について説明できる。
4. 小児期における身体的・心理的・社会的観点からみた特徴および健康上の課題について述べられる。
5. 成人期における身体的・心理的・社会的観点からみた特徴および健康上の課題について述べられる。
6. 老年期における身体的・心理的・社会的観点からみた特徴および健康上の課題について述べられる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	コミュニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		定の要件である
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		定の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 特に指定しない

参考書： 適宜提示する

成績評価方法：筆記試験にて評価する

その他（メッセージ等）：生まれてからから死を迎えるまでに、人間はさまざまな体験し、成長・発達していきます。各ライフステージにおける発達課題と健康上の課題について理解を深め、健康の維持増進を考えていきましょう。

授業内容(学習項目)

	項目	内容（キーワード等）
第1回	人間の成長と発達（1）	ライフステージ, 発達課題
第2回	人間の成長と発達（2）	各発達段階における発達課題① 乳児期～思春期・青年期
第3回	人間の成長と発達（3）	各発達段階における発達課題② 初期成人期～老年期
第4回	心のしくみと成長・発達（1）	イド・自我・超自我, 意識・前意識・無意識
第5回	心のしくみと成長・発達（2）	精神力動論
第6回	心のしくみと成長・発達（3）	自我の発達, 防衛機制
第7回	ストレス・コーピング・危機（1）	人間の危機状態について、危機理論を用いて学習する。 危機回避について、看護の視点から考える。
第8回	ストレス・コーピング・危機（2）	ストレスとその対処について、ストレス・コーピング理論を用いて学習する。ストレス・コーピングと看護について考える。
第9回	ストレス・コーピング・危機（3）	自己のストレス・コーピングについて考え、自己の傾向について客観視する。
第10回	小児期における特徴と健康上の課題（1）	成長・発達の進み方 成長発達に影響する因子
第11回	小児期（新生児期・乳児期）における特徴と健康上の課題（2）	形態・機能的側面の成長発達, 愛着, 認知発達
第12回	小児期（幼児期）における特徴と健康上の課題（3）	形態・機能的側面の成長発達,
第13回	小児期（幼児期）における特徴と健康上の課題（4）	認知・自我の発達, 社会性の発達
第14回	小児期（学童期・思春期）における特徴と健康上の課題（4）	形態・機能的側面の成長発達, 認知発達, 第二性徴, 自己同一性, 対人関係の変化
第15回	成人期における特徴と健康上の課題（1）	成人期における、人間・健康・環境の捉え方について日本人の法的側面・公的調査データをもとに学習する。

第16回	成人期における特徴と健康上の課題 (2)	健康の維持・増進・疾病の予防・生活習慣について自己の周囲・環境を通して考える①
第17回	成人期における特徴と健康上の課題 (3)	成人期における健康上の課題について、事例を通して看護の視点から考える②
第18回	成人期における特徴と健康上の課題 (4)	成人期における健康上の課題について、事例を通して看護の視点から考える①
第19回	成人期における特徴と健康上の課題 (5)	成人期における健康上の課題について、事例を通して看護の視点から考える②
第20回	老年期における特徴と健康上の課題 (1)	高齢社会と日本の現状
第21回	老年期における特徴と健康上の課題 (2)	身体の高齢変化と健康障害
第22回	老年期における特徴と健康上の課題 (3)	精神心理面の高齢変化と健康障害
第23回	老年期における特徴と健康上の課題 (4)	高齢者の生活機能障害：フレイル，閉じこもり，寝たきり

区分名： 看護実践の基盤となる科目

科目名（英語名称含む）：慢性疾患をもつ人の看護【看護2】（Adult Nursing (Chronic)）

教員名： 山手美和、井上水絵、片桐和子、他

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期～後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義・演習，単位数：3単位 ， 時間数：45時間

概要：成人期にある対象の特徴を踏まえ、個人の健康レベルに応じた健康の維持増進、健康障害からの回復に必要な看護援助を学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

（一般目標）

1. 慢性で長期の経過をたどる対象者の健康障害と看護援助方法について学習する。

（行動目標）

1. 慢性期的な健康障害について理解し、長期的な経過の中で慢性疾患を持つ人とその家族に及ぼす身体的・心理的・社会的影響について説明できる。
2. 慢性看護に適用できる概念や理論について理解することができる。
3. 慢性疾患を持つ人とその家族のセルフケアが生活に与える影響について説明できる。
4. 慢性疾患を持つ人とその家族のセルフケア能力を向上させる看護実践及び必要な支援について説明できる。
5. グループワークを通して、慢性疾患を持つ人への看護を実践するために必要な知識を整理し、他者と学習が共有できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。		同上

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	○	
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：鈴木久美，他編集：看護学テキスト NiCE 成人看護学 第2版 慢性期看護 病
気とともに生活する人を支える． 南江堂. 2015

参考書：鈴木志津枝、藤田佐和 編集：慢性期看護論 第2版．ヌーベルヒロカワ．2009
その他、必要に応じて講義の中で紹介する

成績評価方法：出席、課題、試験により総合的に判断する

その他（メッセージ等）：慢性疾患の多くは、中・長期的に療養行動・症状マネジメントを

行っていくことが重要です。病気とともに生きる生活していく患者とその家族にとって、病気とともに生きること、日常生活の中に療養行動を組み込みながら、その人らしい生活・人生を送るとは、どういうことなのか、また、そのことを支援していく援助方法について学習します。

* 講義内容・予定は変更することがあります。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1-3回	成人期にある慢性疾患患者の看護の特徴1,2	慢性疾患の概念・動向、看護の特徴・方法、病みの軌跡理論、セルフケア支援に必要な理論、指導の焦点、生活習慣の改善
第4-6回	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん患者への看護1 ・ 免疫機能障害を持つ人の看護 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症状マネジメントおよび緩和ケアが必要な人への看護、症状マネジメント、緩和ケアに関するチーム医療の実際 ・ 全身性エリテマトーデス患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護
第7-9回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内分泌機能障害を持つ人の看護 ・ がん患者への看護2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 甲状腺機能障害患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護(甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症) ・ 放射線療法、放射線療法中の患者の特徴、症状コントロール、セルフケア支援
第10-12回	造血器疾患を持つ人への看護	造血器疾患により生じる主な症状、化学療法を受ける人への看護、精神的苦痛、ボディイメージの変化、骨髄移植、継続看護、生活指導
第13-15回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感覚器系の障害を持つ人の看護 ・ がん患者への看護3 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感覚器系の障害を持つ人の身体、心理・社会的特徴および看護 ・ がん化学療法、外来化学療法、症状コントロール、セルフケア支援
第16-18回	循環機能障害をもつ人への看護	慢性心不全患者の看護、ペースメーカー、症状コントロール、生活指導とセルフケア、心臓リハビリテーション
第19-21回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動障害をもつひとへの看護 ・ 呼吸器障害を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整形外科の術後回復期患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護 ・ 慢性呼吸不全患者の身体的、心理・社会的特徴及

	人の看護 1	び看護(気管支喘息、COPD)、肺がん患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護、禁煙指導
第 22-24 回	<ul style="list-style-type: none"> 脳神経機能障害を持つ人の看護 呼吸器障害を持つ人の看護 2 	<ul style="list-style-type: none"> 進行性の脳神経変性疾患、パーキンソン病・脊髄小脳変性症、薬物療法、症状コントロール、リハビリテーション、医療連携、コミュニケーション障害、身体機能障害 慢性呼吸不全患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護(気管支喘息、COPD)、肺がん患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護、禁煙指導
第 25-27 回	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝看護 呼吸器障害を持つ人の看護 3 	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリング、遺伝子検査における意思決定支援、親族に伝えること、社会的不利益など倫理的課題や配慮 慢性呼吸不全患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護(気管支喘息、COPD)、肺がん患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護、禁煙指導
第 28-30 回	<ul style="list-style-type: none"> グループワークオリエンテーション 消化機能障害を持つ人の看護 1 	<ul style="list-style-type: none"> ケーススタディーオリエンテーション、事例紹介(肝硬変、糖尿病、他) 消化器疾患患者の身体、心理・社会的特徴および看護
第 31-33 回	<ul style="list-style-type: none"> 消化機能障害を持つ人の看護 2 グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> 消化器疾患患者の身体、心理・社会的特徴および看護 グループワーク(基本情報用紙、アセスメントシート、関連図)
第 34-36 回	<ul style="list-style-type: none"> 代謝機能障害を持つ人の看護 	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病患者の身体・心理・社会的特徴および看護、インスリン療法を受ける人への看護 脂質異常症患者の身体、心理・社会的特徴および看護
第 37-39 回	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク 慢性腎不全患者の身体的、心理・社会的特徴および看護 1 人工透析を受ける人への看護(血液透析、腹膜透析) 	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク(看護目標、問題抽出、計画立案) 慢性腎不全患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護、人工透析を受けるひとへの看護(血液透析、腹膜透析)
第 40-42 回	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク 慢性腎不全患者の 	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク(パンフレット作成、ロールプレイ)

	<p>身体的、心理・社会的特徴および看護 2</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工透析を受ける人への看護（血液透析、腹膜透析） 	<ul style="list-style-type: none"> 慢性腎不全患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護、人工透析を受けるひとへの看護（血液透析、腹膜透析）
第 43-45 回	グループワーク発表	発表

区分名： 看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：母性看護学（ Maternity Nursing ）

教員名：太田操、渡邊一代、鈴木妙子、渡邊まどか、非常勤講師

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期 ，必修／選択：必修選択

授業形態：講義演習実習 ，単位数：3.0単位 ，時間数：60時間

概要：

子どもの誕生に伴い家族の関係が変化し、それぞれの役割に移行していく周産期に焦点を当て学習する。マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期・胎児期および新生児期）にある対象の身体的・心理的・社会的変化の特性を理解し、援助の視点と方法について学習する。また、女性のライフステージにおける発達課題や健康の諸問題を通して、母性としての機能が健全に発揮できるような援助の方法を学習する。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

一般目標

1. 母性看護学の対象の理解を通して、母性看護学の意義・役割を学び、母性看護に関して関心を高める。
2. 母性の対象者に関心を持ち、母性機能を発揮できるための対象のニーズに応じた看護を考える。

行動目標

1. 母性の概念および母性看護の意義と役割について説明できる。
2. マタニティサイクル（妊娠期・胎児期、分娩期、産褥期・新生児期）にある対象の身体的変化、心理・社会的変化を説明できる。
3. マタニティサイクルにある対象の健康状態に影響を及ぼす要因を説明できる。
4. ウェルネス看護診断の考え方を説明できる。
5. ウェルネス看護診断に基づいて、対象の健康状態をアセスメントできる。
6. アセスメントに基づいて、対象のよりよい健康を保持・増進するための看護を説明できる。
7. マタニティサイクルにある対象がそれぞれの役割を遂行できる看護を考えることができる。
8. マタニティサイクルの異常について説明できる。
9. ハイリスク妊産婦のニーズと看護について説明できる。
10. 女性のライフサイクルにおける対象のニーズに合わせた看護を説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	○	模擬的な場 に知識を応

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		用できることが単位認定の要件である
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：有森直子編：プリンシプルを修得し女性・家族に寄り添い健康を支える 母性看護学Ⅰ概論，医歯薬出版，2015.

有森直子編：アセスメントスキルを修得し質の高い周産期ケアを追求する 母性看護学Ⅱ周産期各論，医歯薬出版，2015.

参考図書：太田操編著：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版，医歯薬出版，2017.

成績評価方法：試験、平常点

授業内容(学習項目)※講義順序には変更があります(第1回開講時にお知らせします)。

回数	項目	内容(キーワード等)
第1～3回	母性看護概論	母性看護の概念、意義、役割、ウェルネス看護診断 母性看護の変遷と動向
第4～5回		生殖器の形態・機能
第6～8回		セクシュアリティと看護、女性のライフサイクルと看護
第9～17回	マタニティサイクル	妊娠期・胎児期の看護
第18～23回	マタニティサイクル	分娩期の看護
第24～33回	マタニティサイクル	産褥期の看護
第34～39回	マタニティサイクル	新生児期の看護
第40～42回	マタニティサイクルの異常	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の異常
第43～45回		ハイリスク妊産婦の定義、支援体制 マタニティサイクルの異常の看護